自己評価および学校関係者評価

結果公表シート

（令和5年度）

くりのみ幼稚園・くりのみ保育園

1、本園の教育目標

集団生活の中で様々な経験を通して自立心や道徳心を身につけるとともに、自然や社会の様子について身近な事象からの経験を通して探求心や思考力を育てる。

2、令和5年度に重点的に取り組んだ目標・計画

下記の 2 点について重点的に取り組んだ。 1. 子どもを中心に据えた保育のあり方について検討する 2. 子どもの育ちや保育者の意図を保護者や第三者にわかりやすく可視化する

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
1-① 子どもの姿や育ちの理解を深め、職員間で共有ができているか。	日常の子どもの姿や日々の育ちについて、日常のミーティングの中で意識して共有するよう努めている。
1-② 大人の都合や視点で保育を進めることなく、子どもの姿や育ちに合わせた保育ができているか。	子どもの姿や育ちに合わせた週日案の内容の見直しをこまめに行うとともに、スケジュールなどの見直しを行っている。
2 情報発信の手段について、園内で話し合い、共有できているか。	各クラスの事例紹介など、互いに気づきあった部分について確認と自分のクラスへのフィードバックをおこなった。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

○子どもを中心に据えた保育のあり方について再確認する 目の前の子どもの姿を丁寧に捉えることを幼稚園、保育園それぞれのスタッフ間で再確認してきた。職員間での共有は日常的にこまめにできている。保育の進め方については、行事の内容やスケジュールにも左右されるため、連動しての見直しを進めている。 ○子どもの育ちや保育者の意図を保護者や第三者にわかりやすく可視化する 窓貼りで写真や子どもの育ちの解説、保育のねらいの説明を掲示したり、学年だよりやクラスだよりで保育内容や育ちについて記載をしてきた。参観などの機会を増やし、実際の様子を見てもらえる環境づくりに取り組んできた。

5、今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
園全体の保育観や考え方が子ども中心になるよう、行事内容やスケジュール、普段の園生活のイメージなどについて園内で検討が必要。	行事の時期や内容について、普段の保育とのつながりに配慮しながら調整を進めてきた。

6、学校関係者の評価

従来から先生たちの目線は子ども本位であったが、保育の進め方や行事のあり方に関してもその視点をより反映させるような取り組みが認められた。 保育方針や保育者の意図の可視化に関しては、5類移行後参観などの園行事が従前と同じ規模まで回復したこともあり、ある程度達成できている。 前年度も課題として上がったが、子どもの育ちや保育の意図を先生たちと保護者がより共有できる媒体が今後の課題と考えられる。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。